

有松孝雄 氏 (高校28期)

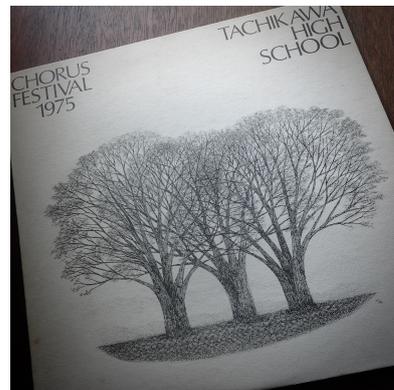
- ・ 1976 東京都立立川高等学校卒業
- ・ 1981 京都大学工学部建築学科卒業
- ・ 1990 寒山工房設立 古典絵画の制作・修復・調査・研究を行う
- ・ 2018 高野山大学非常勤講師



いく筋にも分かれた道を辿ってゆく人生という旅路。これまでの道筋を振り返り、何が進むべき方向を指し示し、今いる場所まで導いてくれたのかを思うと、人との出逢いや不思議な縁というものがあることに気づかされます。

幼い頃、近所に日本画家のN先生が住んでいました。町内の子どもたちに絵を教えていることを聞き、毎週スケッチブックをかかえて先生のアトリエに絵を描きに通いました。毎回課題はありますが、自由な空気の中で絵を描いて、先生に見てもらうのです。この幼少期のささやかな経験が人生の方向を定める大きな要因になっていたのではないかと思います。

高校時代、美術科の担当は洋画家でもあったH先生でした。授業では長く暮らしていたというスペインのお話が印象に残っています。先生には何かと声をかけていただき、漠然と将来は芸術方面への進路を望むようになりました。

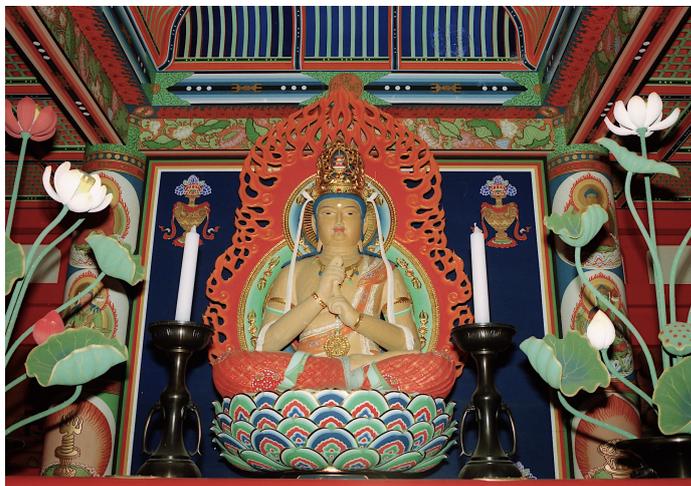


アルバムデザインの作成

大学時代には美術館によく足を運びました。また長い休みの期間を利用して、夏になると山小屋の小屋番をして過ごしたり、精神的なものへの探究心からインドの聖地や禅の道場を訪ねたりしました。そして世界は途方もなく広く、人間は限りなく小さな存在であるという思いを強くします。卒業後は社寺に関わる絵を専門とする工房に入りました。

これまでに仏画などの制作や修復、社寺建造物への装飾彩色など、あらゆる種類の絵の仕事に携わり、この仕事を通してさまざまなことを学んできました。絵を描くことは創造することであり、真理を探究することです。これからもこの創造と探究を続けて行きたいと思います。

私たちはみなこの地球に生まれ、生きて、死んでいきます。その意味を問い、解を見いだそうとする人は幸いです。多くの人は流されるようにして一生を終えてしまうからです。これから広い世界に向けて旅立つ若い方々には、生を信頼し、希望をもって前へ進んでいかれますように願っています。

仏像と寺院内部の彩色
(岸和田市・久米田寺)仏画の指導をする
(高野山大学)